

## マルバハギとサツマハギの中間型

丸野勝敏

〒 891-0113 鹿児島市東谷山 1-51-8

### はじめに

サツマハギ *Lespedeza satsumensis* Nakai は磯間山で採集された標本をもとに、新種として記載された。その後、Hatusima (1967) は笠沙町野間岳からナンゴクチョウセンヤマハギ *L. formosa* (Vog.) Kochne var. *australis* Hatusima を記載し、サツマハギを磯間山の固有種とした。大橋 (1999) はナンゴクチョウセンヤマハギをミヤギノハギの変種、サツマハギをニシキノハギの変種とした。秋山・大場 (1983a) はナンゴクチョウセンヤマハギとサツマハギを同種とした。

筆者は、秋山・大場の説をもとにサツマハギの観察を続けてきた。2005年9月、野間岳の2種が隣接している生育地で、マルバハギ *L. cyrtobotrya* Miq. とサツマハギの中間型が存在することに気づき、2007年10月に磯間山山頂岩場でも採集した。さらに、2013年9月に南さつま市大浦町亀ヶ丘でマルバハギとサツマハギの中間型を採集した。これまで、2種間の中間型の報告はないので、南さつま市大浦町亀ヶ丘の中間型の観察結果を報告する。

### 材料と方法

1個の花、花弁を取り除いた顎およびスケールをスキャナーで同時に取り込み、写真上の竜骨弁・翼弁・顎の基部から先端までの長さをノギスで測定した。マルバハギの翼弁は竜骨弁を覆っている

Maruno, K. 2014. An intermediate form of *Lespedeza satsumensis* and *L. cyrtobotrya*. *Nature of Kagoshima* 40: 269-271.

☑ 1-51-8 Higashi-taniyama, Kagoshima 891-0113, Japan (e-mail: bhh000368641@sat.bbq.jp).

ことが多く、測れなかった。果実の大きさは成熟・乾燥の度合いによって変化が大きかったので測定しなかったが、外形の観察は新しい果実で行った。花序の長さは葉との相対的な長さにとどめた。

### 結果

#### マルバハギとサツマハギの区別

秋山 (1995) は、マルバハギの花は 10 mm 前後、花序は花序軸がほとんど伸長せず、密に花が着き、ふつう葉より短い、顎は長さ 4-6 mm で、裂片の先は鋭尖形、翼弁は竜骨弁より明らかに長く、容易に識別されるとした。

指宿市山川町長崎鼻産のサツマハギの各花弁、顎片、果実の長さについて、秋山・大場 (1983b) は、竜骨弁の長さは 11-12 mm、旗弁の長さは 9.5-11.5 mm、翼弁の長さは 9-11.5 mm、顎の長さは 4-5 mm、果実は楕円形で長さ 10 mm、軟毛があるとした。

#### 生育地の環境

亀ヶ丘 (386 m) は、薩摩半島産西部にあり、凝灰角礫岩からなる奇峰・奇岩、草地在る



図1. マルバハギの各花弁の名称。

絶景の地である。サツマハギは350 m以上の崖上、崖壁。林道沿いに、マルバハギは320 m以下の林道沿いに生育し、崖上に生えることはない。中間型は360 mの林道沿いで1個体見られ、マルバハギの生育地上方、直線距離で50 mほど離れている。

### 中間型の形質

亀ヶ丘の中間型は高さ1 mほどあり、茎に開出毛が密生し、葉の表面に短毛が多く、一見するとサツマハギである。花序は葉より短く、マルバハギの花序よりまばらに花が着いている。竜骨弁を測定すると長さは10.4 mmである。マルバハギの翼弁は竜骨弁より長い、翼弁と竜骨弁を同じ長さで仮定し、翼弁の長さを1とすると中間型は0.9、サツマハギは0.74であり、サツマハギより



図2. 花序. A: マルバハギ; B: 雑種; C: ナンゴクチョウセンヤマハギ. バーは10 mm.



図3. 1個の花. A: マルバハギ; B: 中間型; C: サツマハギ. バーは10 mm.



図4. 顎. A: マルバハギ; B: 中間型; C: サツマハギ. バーは10 mm.



図5. 果実. A: マルバハギ; B: 中間型; C: サツマハギ. バーは10 mm.

長い。顎はサツマハギに外形は似ているが、先が針のように尖る顎裂片がみられ、顎長は 5.8 mm ほどである。果実の外形はマルバハギの果実に似ているが、中部から先へ緩やかな角度で曲がり、サツマハギの曲がり方に近い。果実はよく稔り、種子も充実しているように見えるが、粘性はまだ調べていない。

### 開花期

薩摩半島南部での開花期はマルバハギが 9 月中旬から 10 月中旬、サツマハギは 10 月である。亀ヶ丘周辺では 9 月 29 日にマルバハギは開花していたが、サツマハギは蕾で開花した個体はみられなかった。中間型は 5 分咲きくらいであり、10 月 9 日には果実が着いていた。崖上のサツマハギは開花が始まっていた。

### 雑種

ハギ属植物は種間雑種が知られ、磯間山から亀ヶ丘の岩場には中間型がよくみられる。キハギ *L. buergeri* Miq. とサツマハギの花器官、葉序に特徴があり、中間型は分かり易い。この中間型は両種間の雑種(秋山・大場, 1983b)とされ、シロヤマハギ *L. kagoshimensis* Hatusima と同種とされている。秋山(1995)は、「オクタマハギ(雑種)の花粉の稔性は両親種より低下していると考え

た。ツクシハギとビッチュヤマハギの間に生じる雑種は、稔性がほとんど低下せずに次世代を生じ、個体群の中に存続していくと考えられる。これらの個体は両親種との戻し交雑および雑種個体間での交雑をおこなっていると推測される」と記している。

### まとめ

花序が短く、翼弁と旗弁の長さが同じくらいあり、サツマハギより開花期が早いことなどから中間型と考える。今後、花器官の形態を詳細に観察するとともに、花粉の形態、稔性などを調査し、雑種かどうか判断したい。

### 引用文献

- 秋山 忍. 1995. ツクシハギ, pp. 85–95. 大場秀章・西野嘉章(編), 動く大地とその生物. 東京大学出版会, 東京.
- 秋山 忍・大場秀章. 1983a. サツマハギとナンゴクチョウセンヤマハギ. 植物研究雑誌, 58: 135–145.
- 秋山 忍・大場秀章. 1983b. ハギ属ヤマハギ節の雑種について –3– キハギとサツマハギの雑種. 植物研究雑誌, 58: 248–252.
- Hatusima, S. 1967. Lespedeza: Sects. Macrolespedeza and Heterolespedeza from Japan, Korea and Formosa. *Memoirs of the Faculty of Kagoshima University*, 6: 1–17.
- 大橋広好. 1999. マメ科, pp. 204–205. 佐竹義輔・太井次三郎・北村四郎・亙理瞬次・富成忠夫(編), 日本の野生植物, 草本. 平凡社, 東京.